

序

本報告書は、2006 年に行った北海道内 180 市町村に対するまちづくりアンケート調査の結果をまとめたものである。

まちづくりの概念は多様であり、さまざまな側面から捉えることができる。そのような中で、今回は、スポーツ・図書館・観光・道の駅・広報・職員グループ・環境政策にテーマを絞ってアンケートを試みた。かなり範囲を広げての調査となり、その分、質問量も多くなってしまったが、実に 117 市町村から回答を得ることができた（回収率 65.0%）。残念なことに、時間上の制約で、若干到着の遅れた 5 自治体分のデータは今回反映させることができなかったが、122 もの自治体の協力を得られたことに、驚きと共に深い感謝を感じている。回答数が多いのみならず、多岐の課題におよんでいるため、職員の方々には多大なご迷惑をかけたことと思う。あらためて、この場を借りて感謝を申し上げたい。

そもそもこの調査は、学生と卒業論文について検討している過程で、アンケートを行いたいという希望があったことをきっかけとして、まちづくりに関心のある学生を募ったところ、5 人の学生が興味を示したことがはじまりであった。2006 年 7 月の終わり頃に、アンケート調査の主体として「北海道のまちづくり研究会」を立ち上げ、それぞれの関心にしたがって仮説および調査項目の作成を進め、11 月中旬に調査票が完成、道内の市町村へ発送を行い、1 ヶ月を目処に調査票の回収を待った。12 月中頃にデータセットを作成、各自、解析作業を進め、2007 年 3 月に原稿提出に至っている。報告書の発行が今日に至ってしまったのは、ひとえに代表者の怠慢に由るところである。

ちなみに、報告書の各章は、下記の卒業論文の一部を構成している。

2006 年度北海道教育大学旭川校コミュニティ計画コース卒業論文

佐藤 壘、『スポーツを通じたまちづくり』（社会学ゼミ）

田村美奈海、『図書館づくり運動と地域づくりの可能性』（社会教育ゼミ）

松谷 岬、『北海道の道の駅と内発的発展』（社会学ゼミ）

2007 年度北海道教育大学旭川校コミュニティ計画コース卒業論文

早川 織恵、『北海道の観光とまちづくりに関する考察』（社会学ゼミ）

福本 豊、『クリーン電力を活用したまちづくりの可能性』（社会学ゼミ）

結果として、ウィングを広く取ったがために、やや散漫な調査になってしまったことは否めないが、少しでも、道内における今後のまちづくりへの参考になれば幸いである。

角 一典（北海道教育大学旭川校准教授）